

# 花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ冒険活劇3

国立市立国立第七小学校

平成27年9月9日 NO.47 (247)

オー君 「モンタ博士！『国立七小検定』って、どんな内容なの。」

モンタ博士 「国立市や谷保・富士見台のいろいろなことを、どれだけ知っているかという検定なんだよ。どんな問題にしようかと考えているところなのさ。」

花ちゃん 「つまり、国立物知り博士クイズのようなものですね。」

モンタ博士 「そう、そう。そのとおりさ。どんな問題にしようかな。」

花ちゃん 「あ！そうだ。どんな問題がいいか、私とオー君で国立のことをいろいろと調べますね。それを問題にしてくれないかな。」

モンタ博士 「ほほー。それはすばらしい。そうだ。それを参考にしよう！花ちゃんとオー君の方が国立に長く住んでいるもんね。そうしよう！二人ともよろしく。」

ということで、しばらくして、花ちゃんとオー君が問題を作ってきたとさ・・・

花ちゃん 「まず、国立市のことをいろいろと調べました。人口とか、面積とかです。」

モンタ博士 「ほほー。それで、どのくらいの人が住んでいるの。広さは？」

オー君 「人口は約75000人。面積は約8km<sup>2</sup>（平方キロメートル）。」

花ちゃん 「市長さんは、佐藤一夫さんといいます。学校の近くに住んでいます。」

オー君 「それから、小学校と中学校の数や、大学なども調べました。」

花ちゃん 「公立の小学校が8校、中学校が3校。それから一橋大学があります。」

モンタ博士 「ほほー。それから、それから・・・。」

オー君 「国立市の市のマーク、つまり市章というんだけど、ウメの花をイメージして作ったそうです。右にあるのがそれです。」



国立市の市章

花ちゃん 「地形や交通機関についても調べました。」

オー君 「国立市の南には多摩川という大きな川があり、高速道路は中央高速道路があります。また、鉄道はJR南武線とJR中央線が走っています。」

花ちゃん 「それから、<sup>わたし</sup> 私<sup>くにたちし</sup> たちの<sup>し</sup> 国立市<sup>しら</sup> のまわりにはどんな市があるかも調べました。」

モンタ博士 「ほほー。それは、けっこう<sup>むずか</sup> 難しいのではないかな。」

オー君 「では、<sup>した</sup> 下に<sup>ちす</sup> その地図<sup>み</sup> をかいたので<sup>くだ</sup> 見て下さい。まん中<sup>なか</sup> が国立市<sup>くにたちし</sup> です。」



花ちゃん 「国立市<sup>くにたちし</sup> といえば、<sup>なんぼく</sup> 南北<sup>だいがくどお</sup> に大学通り<sup>ゆうめい</sup> が有名<sup>ほか</sup> ですが、その他<sup>とうざい</sup> では、<sup>さくら</sup> 東西にさくら通り<sup>とお</sup> もあり、<sup>がいろじゅ</sup> ともに街路樹<sup>う</sup> として植えられているのは、サクラ です。」

オー君 「国立七小<sup>くにたちなしょう</sup> の南<sup>みなみ</sup> には、<sup>ふる</sup> 古くからある<sup>こうしゅうかいどう</sup> 甲州街道<sup>ゆうめい</sup> も有名<sup>ゆうめい</sup> ですね。」

花ちゃん 「それから、<sup>わたし</sup> 私<sup>くにたちし</sup> たちは、国立市<sup>ひょうこう</sup> の標高<sup>うみ</sup>、つまり海<sup>たか</sup> からどのくらい<sup>しら</sup> 高いかも調べました。<sup>にし</sup> 西<sup>すこ</sup> が少し<sup>たか</sup> 高くなり、<sup>ひがし</sup> 東<sup>む</sup> に向かって<sup>すこ</sup> 少しずつ<sup>ひく</sup> 低くなっていますが、国立市<sup>くにたちし</sup> の標高<sup>ひょうこう</sup> は、<sup>しやくしょ</sup> 市役所<sup>ところ</sup> の所<sup>ところ</sup> で74m だそうです。」

オー君 「西<sup>にし</sup> が高<sup>たか</sup> くて、東<sup>ひがし</sup> が低<sup>ひく</sup> いので、<sup>たまがわ</sup> 多摩川<sup>にし</sup> は西<sup>ひがし</sup> から東<sup>む</sup> に向かって<sup>なが</sup> 流れるのです。」

花ちゃん 「それから、<sup>わたし</sup> 私<sup>くにたちし</sup> たちは、国立市<sup>き</sup> の木<sup>はな</sup> や花<sup>いろ</sup> や色<sup>とり</sup> や鳥<sup>しら</sup> についても調べました。」

モンタ博士 「ほほー。それは<sup>たの</sup> 楽しみ<sup>たの</sup> だね。」

オー君 「市<sup>し</sup> の木<sup>き</sup> というのは『イチヨウ』なんです。市<sup>し</sup> の花<sup>はな</sup> というのは『ウメ』です。」

花ちゃん 「市<sup>し</sup> の色<sup>いろ</sup> というのは『緑』で、市<sup>し</sup> の鳥<sup>とり</sup> とは『シジユウカラ』なんです。」

モンタ博士 「なーるほど。よく調べていて、とても<sup>かんしん</sup> 感心<sup>くにたちし</sup> だね。国立市<sup>くにたちし</sup> のことはとてもよくわかったよ。、それでは、国立七小<sup>くにたちなしょう</sup> のまわり<sup>ちいき</sup> の地域<sup>おし</sup> のことも教えてよ。」

花ちゃん 「まかせてください。」

オー君 「<sup>つき</sup> 次の号<sup>ごう</sup> をお楽しみ<sup>たの</sup> みに！」